日韓アジア基金 ニュースレター

カンボジアの子どもたちに教科書を

２０１３年１２月　No.４７

カンボジア便り

市井秀治

～目　　次～

カンボジア便り	
幼稚園の支援継続	1
リティさんの体調	3
国際児童画展	3
ボランティアさんの感想	4～9
事務報告	10

ルセイサン幼稚園の支援を新年度も継続

ルセイサン幼稚園では、昨年度から先生の給与と通学手段としてトゥクトゥクの支援を行ってきました。

先生が地域の家庭を訪問して子どもを幼稚園に通学させるよう説得するなど、非常に教育熱心であったことで通園する園児の数は飛躍的に増加しました。また、トゥクトゥクに関しても、以前は通学途中の道でトラックが頻繁に行き来して危険であった為、子どもの送り迎えのできない親は自然と幼稚園を諦めていたのが、子どもの安全に対する心配がなくなり、園児数の増加に大きく寄与したと考えられます。

このような状況から、当会では費用に見合う一定の成果が上がっていると判断し、新年度も支援を継続することとしました。一方で、当会の予算に制限がある中で、幼稚園の先生が給与の増額を要請して来ました。

カンボジアでは物価の上昇が激しく、先生の言い分は妥当であると言えますが、当会としても現地の人が当会の支援だけに頼るのではなく、一緒に教育環境を改善していく意欲を持ち当会の活動に協力してもらう必要があると考えています。その為、現地の政府や親達、幼稚園建設

家庭訪問をして登園を促す先生

の際に中心的な役割を担ったお坊さん、ルセイサン小学校などにも、できる範囲での負担をお願いしました。

結果として、カンボジアの教育省からの支援は期待できないものの、ルセイサン小学校の予算と県教育局からの補助で給与の増額分を負担し、当会は昨年度の給与と同額の支援を行うということで合意しました。トゥクトゥクに関しても昨年度と同じ条件で、1年間契約を延長しました。

なお、これとは別に現地の人の自立を促す試みとしてもう一段踏み込み、収入向上プログラムというものを当会では検討し始めておりました。例えば、やる気のある家庭に当会の支援で家畜を購入・貸与し、そこから上がる収益を教科書支援に役立てる、といった例が挙げられます。当会としては、現地の人にとってもやる気があればメリットのある仕組みだと考え、自発的にどのようなことができるか提案してもらいたいと思っていましたが､最初に教科書支援を行っている 11 校の校長にこのアイデアを説明するとあまり良い反応は得られませんでした。実際にそのようなプログラムを実現させるには、考え方の違いなど、色々と難しい面はあるかもしれませんが、将来に向けて、何かできることが無いか、引き続き検討していきたいと考えています。

当会の支援継続で順調に新年度を迎えたルセイサン幼稚園ですが、夜間に部外者が糞尿を校舎に撒き散らすという事件が起き、現在は臨時の措置でルセイサン小学校の校舎で授業を行っています。現地の報告では、薬の常習者などがルセイサン幼稚園周辺に来てこのようなことをすることがあるようで、過去にアジア未来学校でも同様の事件が起きたことがあるとのことです。当会としてできることは限られるかもしれませんが、ひいては子どもの安全にも関わることなので、学校周辺の家の協力で今後同様のことが起きないように働きかけていきたいと思います。

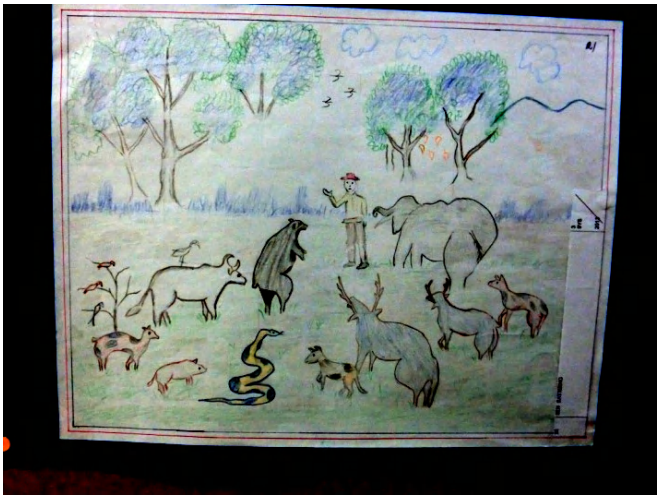
リティさんの体調について

最近になって、当会現地スタッフのリティさんの体調が思わしくありません。全く活動ができないような深刻な状況ではありませんが、高血圧などの症状で数日自宅で寝込んでしまうということが何度か起きております。また、状態が良い時でもパソコンの前に長時間座っていられない状況のようです。また、ルセイサン小学校の校長も数日間入院するなど、体調が芳しくありません。一方で、明るい話も届いています。

リティさんにお子さんが産まれました。女のお子さんだそうです。おめでとうございます。当会としましては、リティさんやルセイサン校長の体調を最優先として、あまり無理をかけないように配慮していきます。

今年もカンボジアの子ども達の絵を第 18 回国際児童画展に出品しました

当会の長年のご支援者である柴田義之様のご紹介で、今年も第 18 回国際児童画展にカンボジアの子ども達の絵を出展しました。昨年のテーマは「のりもの」でしたが今年は「お休みの日」でした。展示期間は 11 月 11 日～11 月 17 日、横浜の「アートフォーラムあざみ野」で開かれ、カンボジアからは 22 作品が出展できました。その他の国の主なものはアメリカ 41、ブルガリア 10、オランダ 11、日本 24 などです。カンボジアの子の絵を 2 点ご紹介します。



今後の予定は 2014 年 1 月 14 日～17 日に横浜の青葉区役所ロビーでも開かれますので、皆さんご覧になって下さい。

ボランティアさんの感想

初めてのボランティア　～ニュースレター発送作業～　　会社員　宮川和夫

今回、生まれて初めてボランティア活動に参加しました。
先ず、アジア文化会館の会場に入った時、若い女性ばかりが目に入って、いい年のおじさんが場違いなところに来てしまったなあ、と感じました。高校生、大学生が多くて、社会人になった自分の子供より若くて、「まいったな」と思いました。

それから、早速作業に入りましたが、自分の作業のスピードはどう頑張ってもスローで、周りの方についていけず、シンドイ思いをしましたが、そうこうしている内にマイペースでできる作業が殆どとなり、何とか作業を終えることができました。自分なりに頑張ったせいか、達成感がありました。また、基金の方も皆親切で、うまく一体感を醸成していたように思います。

今回のボランティア参加の教訓です。

1　年長者でも受け入れてくれ、慣れてくれば何とかなって、皆さんと一体になれる
2　普段の仕事の上下関係ばかりが、人間の関係ではなく、水平関係も悪くない
3　肉体的、反射神経の衰えは如実にでてしまう
4　ボランティア参加の若者は皆元気で、真面目で素晴らしい

参加者の緊張ほぐしもかねたガイダンス

ボランティア活動は初めてでしたが、新たな新鮮な体験が得られました。また、もう少し支援資金があれば、活動もより活性化するかと思います。支援者の方への押し付けとはならいように配慮しながら、「現地の方の生の声」のフィードバックがより聞こえる方が良いように感じました。やはり、支援者の方は、支援先の方がどういう気持ちで受け取っているかが一番知りたいように感じます。
以上、初めての方でも大丈夫だと思うので、このボランティアは年長者にもお薦めです。

受け取る人の心を動かす手書きのメッセージ

意外に楽しかったニュース

レター発送作業

会社員 徳丸謙二

社会人になると、自分の自由度が広がる。時間の自由は少なくなるとしても、金銭面の自由が出てくる。 興味があることばかりに首を突っ込んでいった結果、視野が狭くなるのを感じていた。

そんな自分に鞭を打つため始めたボランティア活動ですが､ニュースレター発送という一見地味な活動に自分から参加させていただきました｡しかし実はあまり期待はしていませんでした。若干の遅刻はしましたが、無事に到着し、作業に取りかかる。

「トイレ用ポンプの提供をします」という手書きメッセージを書く。

胸がチクリと痛みました。 日本にいるとつい忘れてしまう。電気、水道、ガス、交通、流通、通信…日本はこれら生活基盤が十分に整っている環境であることを。

ジャングルの奥地に住む「我々は自然と共に生きる。便利な仕組みなど不要だ」と言う原住民ならともかく、これらの生活基盤が欲しくても整わない国や地域がある。

この宛名書きは、そんな「欲しくても整わない生活基盤を整える手助け」になることだと。こんな考えを「きれい事」と言うならそれでも結構です。どうぞ汚れた言葉でもかけてください。 どれだけ強烈に汚れを落とす洗剤があっても、汚れが発生するまでは、きれいにする洗剤の使い途がないのですから。

「正義の存在価値は、悪の存在によって証明される」という皮肉な格言もあります。

手書きにも意味がある。ある自動車販売店とアパレルショップは、手紙のプリンタ利用を制限しています。すべてまたは一部を手書き。

「字が下手でもいい。手書きには心を動かす力がある。手で書け」と。

凄腕の店員だとお客様の数も多いから、余計負担になります。それでも手書きを徹底させています。 心に届くのは「文章」ではなく「文面」だから。

受け取る人に、書き手の心を届ける使命感を受け止めて書き続けました｡みなさんも同じ気持ちだったでしょう。流れ作業のごとくひたすら黙々、と思っていたけど、自己紹介したり、何をすればいいのか周囲に確認しながらだったので、集中と弛緩を繰り返して楽しいひとときでした。 一作業、一段階ごとに区切って、足並みが揃うまで次の作業への移行は様子を見つつ進める主催側の手際も見事です。この手際は仕事の時でも役立ちそうです。

また、大澤理事の「ボランティアに参加した皆さんをこき使う」という一言も納得しました。確かに、暇すぎてぼんやりする時間が多かったら、退屈して飽きてしまうでしょう。

終わった後のデニーズでのお昼も、サプライズがあって楽しかったです。

先行して席を取ろうとしました。しかし満席だったため待ち時間がありました。待っている間に、ボランティア参加のお二人が後から入ってきてばったり。

一緒に食べることとなりました。 空席があってスムーズに座っていても、満席だからとあっさりお店を出てもこの展開にはなりませんでした。 再認識したり、新しい発見をしたり、サプライズがあったりと、とても充実した時間を過ごせました。

主催者を含めて参加されたみなさん、本当にありがとうございました。

ニュースレター発送作業に参加して 気づかされたこと

一字一字心を込めて書いていきます

高校２年 平泉 映美子

今回、初めて日韓アジア基金のニュースレター発送作業にボランティアとして参加しました。

私自身、中２の頃から地元の２つのボランティア団体に所属し、月一回程度活動をしている経験があります。

参加した理由としては「夏ボラ」のお知らせが学校の掲示板に貼ってあり、興味本位で説明会に参加し、一覧表を見たところ、国際交流関係のボランティアをやってみたい気持ちがつのりました。ほぼ毎日部活に追われている私にとって、このボランティアが短時間で出来るという単純な理由もありました。

初めは、事務作業ということもあり、堅苦しいイメージがありましたが、自己紹介を取り入れていたことで、会場が盛り上がったので、ホッとしました。

ほぼ最年少の参加者だったので、大学生や会社員の方々とも仲良くしてもらい、分からないことはサポートしていただいたので、自分なりにスムーズに作業を進められたと思います。

一方で、カンボジアの子ども達は、勉強したくてもできないのが現状です。

それなのにこうした子ども達の現状を忘れて、私はと言えば苦手な英語の文章の羅列につい投げ出してしまうことがよくあり、大いに反省させられました。

吹奏楽部に、茶道部、生徒会をなんとかこなしていますが、唯一、勉強が欠けています。

毎日、学校生活で忙しく、帰ったらご飯を食べ、風呂に入り、スマートフォンを寝るまでいじり、そんな怠惰な生活を送りがちです。

私は、自分の現状に気づかされ、これからはできることは全部こなさないといけないなと思い、漢検準一級、英検といった資格の勉強、それから勉強を含む学校生活を全力で取り組み、日々精進していきたいと思いました。

最後に、時間の関係で作業が終わった後、デニーズでのお食事会に参加することができませんでしたが、今回予期せぬ色んな経験ができたので、今度また機会があれば、是非日韓アジア基金のボランティアに参加したいです。

ありがとうございました。

（編集者注：「夏ボラ」は「夏の体験ボランティアキャンペーン」が正式な名前です「東京ボランティア・市民活動センター」が毎年夏休みの時期に、主に学生を対象としてボランティア活動を普及するために行っている事業です。）

国際協力の実感が得られました～グローバルフェスタに参加して

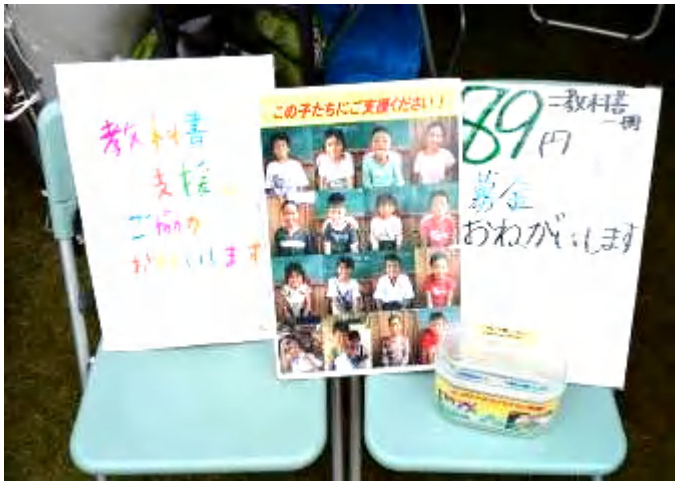
会社員　上村　太一

日韓アジア基金の 2013 年グローバルフェスタのブース出店に関し、10.月 5 日と 6 日の 2 日間にわたって、ボランティアとして参加させていただきました。

自分は、これまで、日韓アジア基金のことは知りませんでした。しかし、最近、会社内で社会貢献を担当する部署に異動し、なにか個人的にも活動をしたいとおもっていました。そういう矢先、大きな企業の協賛の下で企画された、夏の体験ボランティアという、ＮＰＯと都民のマッチングの仕組を聞きました。それを利用させていただいた際、日韓アジア基金の活動理念、内容及び今回のボランティア募集のことを知りました。

私は、過去にカンボジアを訪れたことがあり、現地の歴史や貧困についてある程度感じるところがありました。またもともと子供たちの向上心や柔軟性が好きで、冒険キャンプなどの青少年育成の活動をやっていました。そんなところから今のカンボジアで子供たちの夢や可能性を伸ばすための基礎教育の必要性、重要性が強く感じられ、教科書支援という日韓アジア基金の活動に共感できたことでボランティアの応募に至りました。

実際の活動は、活動取組を展示したブースの紹介と募金集めを主に行いました。



今年も多くのカンパが集まりました

緑のシャツが目立ちました

事前に理事の大澤さんから、活動背景や取組実績についてインプットしていただきました。さらに活動中にも見学者への説明を通じて、現地の状況などについて詳しく教えていただけたため、ブース見学者や道を通りすぎる人から自分が頂くお金の意味と価値を十分に理解でき、自信とやりがいをもって、呼びかけをすることができたと思

います。

通常、国際協力などというと、大それていて、先生さまや熱心な活動家の方でないと、なかなか携われないようなすこし遠いイメージを持ちがちでした。しかし、今回のように、取組内容について説明をし､より多くの人々に共感してもらった上で募金をしていただくというこの活動は、取組としての敷居は低いですが、直接自分の限りあるお金を募金すること以上に、これからにつながる国際協力をしているという実感をもてるものであると感じました。

また､同じようにボランティアで参加した方々やブースに来て下さった方々のやさしい思いや、新しい視点に触れることができ、疲れがちな会社員生活をつづけるための元気をいただけたように思います。

最後に、活動を永続させるための運営を中心になってされている方々に敬意と、参加の機会をあたえていただいたことへの感謝をいたします。

グローバルフェスタ 2013 に参加して　　東京女子大学　松川のぞみ

私は日韓アジア基金のボランティアスタッフとして、２日間グローバルフェスタに参加させて頂きました。グローバルフェスタには初めて参加しましたが、想像以上に規模が大きく、数えきれないほどの NPO や NGO など国際支援を行っている団体が集結し、それぞれにブースを出していました。セミナーやトークショー、ワークショップなども行われていました。

雨の中､来場者に募金を呼びかける

来場するお客さんも国際協力に興味がある方が多く、人と人が交流し、お互いの活動をシェアすることができる素敵なイベントでした。

１日目は雨天の中、グローバルフェスタが開催され、傘をさしながらの募金の呼び掛けを行いました。お客さんは少なかったのですが、雨にも負けず、スタッフやボランティア全員で盛り上げました。

２日目はボランティアの方が倍以上に増え、天候にも恵まれたため大盛況でした。日韓アジア基金に興味を持ってくださる方、快く募金をしてくださる方、頼もしいスタッフの方々と、個性豊かなボランティアの方々に恵まれ、とても楽しかったです。改めて、この日本という国にも､「カンボジアなど発展途上の国を救うために、自分にできることをしたい」と思っている人がこんなにもいることを、募金活動を通じて知り、とても嬉しい気持ちになりました。私も自分にできる最大限のことをしていきたいと思いを新たにしました。

私自身、国際協力の学生団体に所属し、中古教科書の販売を通じて、ラオスの教育支援をしています。日韓アジア基金のカンボジアの教科書支援と通じるものがあり、大変有意義な活動をすることができました。また機会がありましたら、参加させて頂きたいと思っています。素敵な時間をありがとうございました。

とても楽しかったアジア文化会館秋祭り　　学生　大平 未菜美

私は今まで地域の小さなボランティアにしか参加したことはなく、今回の ABK フェスタが初め

ての大きなボランティア活動でした。元からボランティアに興味があったのですがなかなか機会がなく、今回友人に紹介をしてもらい参加することにしました。

今回は、日本に来ている留学生が地域の人に自分たちのことを知ってもらうためにお祭りを開き、各国の料理を出したり歌や踊りを披露すると聞いてそちらにも興味を持っていました。

私にとって募金などを呼びかけるボランティアは初めてだったので、上手く出来るか心配でした。でも一緒にボランティアをやった皆さんが、優しく説明してくださったので安心して活動できました。私たちは主に自分達のブースを設けて、無料で韓国茶を提供しながら、カンボジアの子ども達のための募金を呼びかけました。

今回は雨ということで室内での活動でしたが、多くの方がいらしてくださったので沢山の方に募金を呼びかけることができました。その中には興味を持って活動内容について質問してくださった方や、「これを使ってください」「お疲れ様です」など優しい言葉をかけてくださった方がいてやりがいを感じられました。

温かくて甘い韓国茶をサービス中です

私も今回のボランティアの参加で、89円でカンボジアの子どもたちに1冊教科書を届けられることを初めて知って驚きました。同じようにそのことに驚いた方がたくさんいらして募金してくださいました。結果2万3千円もの募金が集まったので達成感を感じられました。ただ募金を集めるというだけでなく、ブースにいらしてくださった方ともお話をしたりして交流できたのでその点でも楽しめました。

また休憩中には留学生の方の出し物を見に行って彼らの国の料理を食べたり、会話をしたりなど貴重な体験をしました。驚いたのは彼らの日本語がとてもうまく、困ることなく会話をしていたことです。彼らから自分の国の料理について説明をしてもらい、楽しい時間を過ごすことができました。

今回のボランティアでは募金を集めるということだけでなく地域の方や留学生の人たちとも交流することができたのでとても楽しんで活動することができ、良い経験になりました。また機会があったら参加したいと思っています。

終わってホッと一息

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方

敬称略･五十音順

2013 年 9 月 1 日 ニュースレター46 号 発送作業

梶亜寿紗・河村寧々・菊田明日美 ・キムヨンフン・木村綾夏・黒澤真理・佐藤汐里・沢崎夏歩・高山諒也・千葉真由美・徳丸謙二・中山汐音・西田敏美・林くらら・平泉映美子・星野廣平・堀越大士 ・宮川和男

2013 年 10 月 5 日・6 日 グローバルフェスタ 2013

秋葉慶子・今井詩音・岩田珠美・上村太一・槍亜美・大家惠・大山菖・小木曽夏織・長田みなみ・久保裕美・佐藤亜弓・篠崎沙菜・島田和枝・島田浩実・滝沢春乃・奈良田明彦・松川のぞみ

2013 年 10 月 26 日 アジア文化会館秋祭り

宮下修・相内美穂・菊田明日美・大平未菜美

2013 年 8 月 25 日～2013 年 11 月 26 日に会費･ご寄付を下さった方

敬称略･五十音順･別枠を除く

岩見 豊子	工藤 早苗	近山 武子	細川 武･敦子	宮本 直実	吉野 早苗
王 嶺	斉藤 乃章	佃 吉一	堀内 和子	村松 悦子	渡邉 京子
大澤 龍	柴田 直美	中原 美香	松本 昌幸	矢崎 芽生	
大塚 紀子	芝村 篤樹	西川 眞衣子	丸山 美津子	柳田 文子	
神戸 博子	曽根 文子	福本 正勝	丸山 芳彦	兪 和暎	

ABKフロー学生会

ご入会･ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費１口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

＜郵便振替口座＞
口座番号 00180-2-25153
口座名 日韓アジア基金

･活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
･賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

＜お問合せ先＞（日本語でお願いします）

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
Tel:090-4456-2942(庶務･会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
E-メール: ilaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさって下さい。

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也